

## 学校関係者評価報告書 令和2年度

項目	評価項目	評価結果・課題	課題・改善方策
(1) 教育理念・目標	・創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか	創学の精神と教育理念を明確にし、徹底したことは、「自立」かつ「清く正しく美しく」の意識向上につながったと評価する。	「自立」「清く正しく美しく」は創立以来の伝統であることを踏まえ、100周年という節目を越え、更なる発展のために教職員のみならず学生・保護者にも広く明示して徹底し、実行していく。
	・職業とキャリアを重視した教育がなされているか	全学年に於いて新規の取り組みを導入し、自己分析と適性の発掘、適視を行うことによって、学生一人一人のキャリア形成に役立て。その効果が就職率の向上という結果で現れたことは評価に値する。	キャリアを重視した職業教育は、ここ数年で体制が整えられている。これに慢心することなく、前年と同様に自己分析、適性の発掘に加え、ジョブ・カードなど公的な仕組みも取り入れていくことで更なる上進を目指す。また、それによる就職率上加を試みる。
	・専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか	服飾学校の社会における役割として、学生の育成のみならず発表の場を設けることが挙げられるが、今年度は世情もありそういった場が少なかった。今後も情勢を真摯に観察し、オンラインの活用など柔軟な対応をしていくことが課題である。	社会に於いて服飾の専修学校に求められていることは、即戦力となる学生の育成と、その成果発表、また技術の継承であると考え。対面が難しい反面、ネット上での環境やアクセスが広く拓かれたことは、これらにも大きな影響があるとともにメリットがあるものと思われる。世情に合わせた柔軟な対応を心がけ、更なるニーズに合った学校づくりを図っていく。
	・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想に関しては、学生や保護者にも広く周知されている。今後は書面や口頭だけではなく、HPなども広く活用して更なる周知に努める必要がある。	学生・保護者へは対面や書面での通知が多かったものの、今後はHPなどネット環境も大いに活用し、現在以上の周知に努めていく。
	・専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか	被服構成実習・実技を主軸として、一般教科等を適時受講することで人材育成に努めていることは評価する。即戦力となる人材像を再度見直すことで、更なる向上を見込むことができる。	専門業界に於いて即戦力となる人材に求められるスキル、技能、人間性など、人材像の再度見直しと洗い出しを図る。それに則って、専門教科でも技術のみではなく、人間性の熟成と指導にも努めていく。
(2) 学校運営	・校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか	「分掌の重複を減らす」「校務の効率化」が昨年度の課題かつ改善方策であったが、教員間の連絡を密にしたことで、効率化が図られた。今後も校務の煩雑化に備え、職務の整理を行っていく。	校務分掌に於いては、見直しを行ったうえで再度校務の割り振りと内容の確認を行っていく。校務の煩雑化を見据え、マニュアル作成や連絡の密度を増加させるなど、校務分掌が遂行しやすい素地づくりを図る。
	・事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか	事業計画は共通理解のもと、運営されている。今年度はイベントの開催自粛や中止なども多かったため、発表の機会が少なかったが、来年度はカリキュラムの進行とともに外部イベントにも取り組んでいくよう図る。	コロナ禍は続いているものの、それのみを注視することなく、広範的な情報を集め、また内部でも適時意見交換を行いながら、事業計画を進行していく。共通理解の面においても齟齬のないよう努める。

	<p>・運営組織や意思決定機能は職員会議等で諮られて納得して十分機能しているか</p>	<p>運営組織内での課題や連絡事項を職員会議や適宜行った会議等で認知し、意思決定機能においても意見を募り、各々の納得を得たうえで機能させた。</p>	<p>来年度も引き続き同様に行っていく部分である。また、意思決定については決定事項が教職員間で共有される仕組みをつくり、連絡不足などの不備がないように図る。</p>
	<p>・人事、給与に関する規程等は整備されているか</p>	<p>人事・給与規定は整備されているものの、教職員への周知に不備がある。各方面からの意見を参考にしながら、より良い方向への整備を目指し、十全させるべきである</p>	<p>人事・給与規定は教職員に明示し、周知に努めるとともに教職員の働き方の改革を行い、安心して働ける環境づくりと満足度の上進を試みる。</p>
	<p>・業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか</p>	<p>地域的な関係性はイベント等の中止なども相次ぎ、接点が減ってしまったものの、業界との連絡は密にし、前年以上に様々な関わりが出来たことを高く評価する。</p>	<p>来年度も業界との連絡は密に行っていくべきである。更に地域社会との関わりについては、様々な情報を収集し校風や教育理念に合った関わり方を展開していく。</p>
	<p>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</p>	<p>HP、SNS、情報誌などでの発信を積極的に行った。また都度確認を経て適正な情報公開に努めている。</p>	<p>教育活動は引き続きHP、SNSなど様々な方法を活用しながら公開していく。また学生に向けても、学校での教育活動の周知を徹底していくことで、啓蒙を図る。</p>
(3)教育活動	<p>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p>	<p>年2回の教育課程編成委員会によって、教育課程は実施方針に従い策定されている。技術の習得にとどまらず、人間教育、自立を促す教育を目指すことで、素晴らしい人材育成につながるものと期待する。</p>	<p>来年度も年2回の教育課程編成委員会を開催し、委員からの意見を取り入れながら教育課程の編成を行っていく。また人間的な教育、業界のニーズなど幅広い視点からの意見を求めることで、教育課程の充実と奥行きを醸成を試みる。</p>
	<p>・業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか</p>	<p>インターンシップや就職において関係のある地元企業から、新入社員に求める評価・情報を集め、本校における教育のレベルや偏りを汲み取り、適宜教育と時間配分を行っている。</p>	<p>業界の求めるニーズは日々変容するものと考え。また、経営者によっても大きく左右される部分であるため、全体のニーズがどこにあるのかをよく見極め、適時教員間で話し合いを持ちながら、教育内容の充実とともに時間配分を適切に行っていく。</p>
	<p>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p>	<p>学科等のカリキュラムは体系的に編成されているが、コロナ禍による休校や時差登校の措置などもあり、またイベント等の自粛や中止が相次いだことも実践的な職業教育という面ではやや不足した。しかし対策を行いながらカリキュラムの進捗と都度見直しを行い、成果披露を開催できたことは評価する。</p>	<p>体系的に編成されたカリキュラムを基に、来年度以降も教育方法の工夫・開発を行っていく。オンデマンド・双方向型授業など、オンライン授業も科目によって特性を使い分け、また対面授業とのバランスを取り、その時の状況に合わせた活動を行っていく必要がある。</p>
	<p>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	<p>教育課程編成委員会によって策定されたカリキュラムを進行しているが、業界団体等との連携を図るとともに世情を十二分に鑑み、適時カリキュラムの見直しが行われている。</p>	<p>例年と同様に、教育課程編成委員会で策定したカリキュラムに則り、適時カリキュラムの見直しを行っていく。企業・関係施設などからも広範的な意見を求め、より充実したカリキュラム作成に取り組む。</p>
	<p>・関連分野における実践的な職業教育（産学連携事業）は体系的に位置づけられているか</p>	<p>産学連携事業はコロナ禍に於いてもっとも減退した部分であり、反省するところが大きい。来年度はオンライン環境を活用するなどの方法をもって、更なる発展を目指す。</p>	<p>前年度までイベントなどで連携を求められることが多かったものの、来年度はそれだけに注力せず、研究などに於いても産学連携を行っていく。カリキュラムに体系的に位置づけられていることを踏まえ、オンライン環境を活用し上進を図</p>

			っていく。
	・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	卒業生及び学校関係者からのアンケートを行い、情報を収集している。外部関係者からの意見は真摯に受け止め、学校及び教育環境の整備に役立てている。	来年度は更に外部関係者から広範的かつ客観的な意見を取り入れ、各所にて諮りながら職業教育に評価を取り入れている。
	・授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	学則及び内規によって明確に定められ、学期ごとにそれらに則って評価を行っている。カリキュラムのシラバスでも成績評価や単位認定が明示されている。	来年度以降も同様に、学則及び内規によって授業、成績、単位の評価と認定を行っていく。進級・卒業判定の基準を明示し、学生達の自己管理並びにカリキュラム進行に反映させていく。
	・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	資格取得等の指導体制と位置づけは、カリキュラムで明確に設定されていると評価する。また、オンライン環境が整備されたことを基に、受験対策をオンラインで行ったことは資格取得の大きな後押しになると期待する。	来年度も引き続き、オンラインでの受験対策に取り組んでいく。また、資格取得とともに資格を一助として社会を活躍するための心構えなども並行して教育していくことで、即戦力に値する人材育成に励む。
	・人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	目標達成を果たす能力を有した教員を確保し、適切に授業に配置していると評価する。また、教員間で授業に関する相談も密であり、来年度も同様に確保に努めることを提言する。	教員の確保に向けては今後も安定に努めていく。また人材育成目標を教員間で共有し、目標達成に向けて日々努力していく。
	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	職員研修等により、例年同様に指導力の向上に努めていることを評価する。適宜指導力の向上や、各自の知識・技量の増進を図っている。	教員研修では、指導力、技術、両面の向上を行っている。来年度は今後必要になってくるスキルをよく研究し、各自の教員が受け持つ授業で十分な効果を発揮できるよう、資質向上に取り組んでいく。
(4)学修成果	・就職率の向上が図られているか	就職率において、大幅な改善が見られたことは素晴らしい成果である。この結果に満足せず、社会で通用する資格・能力を備えた人材育成に取り組み、就職率の更なる向上を目指す。	就職率は前年度に比べて大幅な改善が見られたが、現状に満足せず、改善を図る。社会で求められる人材の掘り下げを行い、就職先の候補となる各企業、就職活動状況の流れなどを研究し、就職率の向上に努める。
	・資格取得率の向上が図られているか	昨年の社会情勢で検定の中止もあり、資格取得率の低下はやむを得ない部分もある。しかし学生達の資格取得の意欲を増進し、資格取得に取り組ませていくのは必要である。この面に関しては柔軟な対応が求められるため、今後の課題と言える。	資格取得に関しては、過去問題など蓄積されたデータが学校にあるため、Google Classroomなど学生のみが閲覧できるネット上に於いて、試験対策に大いに役立てられるものとする。オンラインの活用によって、学生達の資格試験への意欲向上の寄与を図る。
	・退学率の低減が図られているか	退学に関しては、適時それぞれにケアを行っていたものの、心身の不調、進路変更など、学校で助成できる範囲外の事情もあった。そのため昨年度に比べて低減したとは言い難いが、来年度もその姿勢を持って取り組んでいくべき部分だと提言する。	退学を希望する学生に対し、適時ケアを行う姿勢は来年度以降も継続すべき部分である。学校で補助できる部分のサポートは手厚く行い、その範囲外のことであっても常に寄り添う姿勢をもって相談に応じ、退学者の低減につながるよう努める。

	・卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	在校生の学校生活だけではなく、その後就職し学校で学んだことをどう活かしているか、先輩方の活躍を発信することで、在校生のキャリア教育に役立てている。今後もその効果を見込み、在校生のキャリア選択にも幅広く活用していく。	卒業後こういった進路を選択するかは、学生の将来やキャリア形成にも大きな影響のある部分である。それを十分に理解した上で、卒業生の活躍を分かりやすくまとめた紙媒体、あるいはインターネット媒体で紹介していくことが、教育活動の改善に活用できるものと期待する。
(5) 学生支援	・進路・就職に関する指導・支援は行われているか	就職活動において、今年度は対面での面接の他、オンラインでの面接なども増加した。オンライン面接の指導など、世情に合った就職活動を行えるよう支援したことを高く評価する。	進路・就職に関しての指導は体系立てて整えられている。だが自主的に動けない学生がいることも踏まえ、全体的な就職活動の指導だけではなく、個々の希望や適性に合わせて柔軟な対応をしていくことが、更なる就職率の上昇に直結すると考える。
	・学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談に対し、時間・曜日等を設定して対面での対応を行うなど、相談しやすい環境づくりに努めたことが評価できる。相談内容に関しては適宜悩みや不安の種類に応じて教員間で情報を共有し、学生が安心して学べる環境づくりに励んだ。	現在、学生相談に対する体制は整っていると考えられるが、学生からの相談に関しては担任教員が主として担う部分でもあるため、相談の種類に応じて相談先を種々の教員に任せしていくことでより専門的なサポートができるものとする。その点に関しては、学生本人の希望も十分に聞き取りを行いながら進めていくことが肝要である。
	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	学校で用意している種々の支援を広く周知することによって、経済的な面での支援を後押ししている。高等教育無償化制度なども学生に広く認知されている。	経済的な支援体制が十二分に用意されていることを、新入生を中心として更に周知していくことを心がける。高等教育無償化など、申し込みの段取りが複雑な制度に関しても担当教員の理解を深め、学生が安心して支援が受けられる相談体制を整えていくことが満足度につながるものとする。
	・課外活動に対する支援体制は整備されているか	今年度は課外活動自体が見合わせとなるものが多かったものの、学生からの意見・要望があれば活動内容を吟味し、状況に応じた対策を講じつつ、行えるよう準備が整っている。	課外活動の支援体制は整備されているが、現状に満足せず、都度学生達の意見に耳を傾けながら必要なサポートを行っていく。
	・保護者会と適切に連携しているか	保護者との連絡は例年になく密であり、学校から保護者へ発信する情報が多かったのに比例して、保護者からの連絡や相談なども多く、保護者会との連携が図られていたと評価する。	保護者が学校に求める姿勢・サポートも年々変わっていることを念頭に置き、保護者と担任教員間で密な連絡を心がける。更に保護者会や役員会などで活発な意見交換を行うことで、学生だけでなく保護者からも篤く信頼を寄せられる学校づくりを図る。
	・卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	卒業生との連絡、情報交換を活発に行い、学校に対して希望する事柄などの洗い出しを行った。それを基に教育環境の整備を行っているものの、更なる上進を見込む部分がある。	卒業生のニーズとして、施設、環境、教育などといった部分に満足を感じているか、社会に出て不足だと感じた部分はどこなのか、更なる聞き取りを行い、関係各所に諮りながら教育環境の整備に努める。
	・中学・高校・高等専修学校等と	今年度、来校などの動きは例年に比べて控えられていたも	来年度も中学校を中心とした職業教育は見込まれている。中

	の連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	の、福島市を中心に出前講座などを行い、キャリア教育や職業教育に積極的に取り組んだ。	学校のうちから服飾への興味・関心を高めておくことは、将来学生募集の部分でも大きな助力であることを念頭に置き、これまで以上のキャリア教育・職業教育に取り組んでいく。
(6)教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	保護者、在校生アンケートでともに約26%不適切だという意見が出ているため、改善を要する。毎年のように最新の機器、設備を導入することは難しいが、企業では最新機器を導入しているところも多いため、少しずつでも導入していく必要がある。	時間も金銭もかかる部分であるため、優先順位をつけながら取り組んでいくことが肝要である。新しいオンライン環境整備のためパソコンやスピーカーなどが導入されたため、今後はそれを活用するとともに、現在の施設・設備を十二分に点検・確認した上で、必要性が高い設備から導入を図っていく。
	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	コロナ禍による世情で、実習施設などの利用が制限されているのはやむを得ない部分であるが、連携企業の努力もありインターンシップが行えたことは評価に値する。オンライン環境の構築がハード・ソフト面ともに求められる今、柔軟な運用が今後の教育環境の構築に役立つものと考ええる。	来年度も引き続きインターンシップなど実践的な教育に注力するとともに、ハード・ソフト面ともに更なる充実を図り、オンラインだからこそできる柔軟な対応を行っていく。それによって教育体制の上進を試みる。
	・防災に対する体制は整備されているか	防災に関する施設の改善は、環境改善への努力を行ったことをよく評価するものである。しかし現在の防災態勢に関して、不安として学生の実感するところがあり、学生達が安心して充実した学校生活を送れるように整えることは急務である。	2月に起こった福島県沖地震以後、軽度の地震が頻発している状態であることを看過せず、施設環境の整備とともに避難訓練を行うなど、防災に対する意識の浸透と強化を図っていく。
	・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか	東北地方の各高等学校宛にパンフレットを送付し、また動画企画などを発信することによって資料請求が増えたことは評価する。更なる来校者の増加を目指し、来校しやすい素地づくりに力を注ぐ必要がある。	情報提供の取り組みは引き続き行っていくことが肝要である。更に、来校者の増加を図るため、オンラインでの個別相談などに力を入れ、そういったことに慣れていない高校生向けにHPなどでやり方を分かりやすく説明するページを開設するなど、解りやすくする試みを行っていく。
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか	リクルートでの企画参画、また東北地方の高等学校へ新規パンフレットの送付などによって資料請求の件数が増加したことは高く評価できる。実在の学生のリアルが見えることによって、親近感の増加や自分への置き換えなどが容易になるため、今後も続けていくべきである。	来年度も引き続きリクルートと提携し、資料請求数の増加と認知度上昇に取り組んでいく。またリクルートだけでなくHP、SNSなど様々なツールを活用し、学校生活のリアルや活動状況を発信していく。
	・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか	様々な問題がある中、現代ならではの方法、努力、工夫が感じられ、大いに期待できる状況である。今年度は就職先が9割服飾関係であり、大いに活用できるものと考ええる。	来年度は資格取得・就職状況などの教育成果を更に広く周知するべく、今まで利用していたツールだけでなく、紙媒体、
	・学納金は妥当なものとなっているか	関係部門で検討したうえで理事会において諮り、学納金の金額を決定する。学費が妥当なものとなるよう十二分に熟思し、学納金の金額を決定しているため、適正かつ妥当な	関係部門で検討し、理事会によって諮られ、学納金の金額が決定される。時勢や時流などを鑑み、適正、妥当であるか、見直しと熟考を重ねていく

		ものとなっていると評価する	
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	安定していると言えるが、中長期的に考えたうえでは取り組むべき課題も見受けられた。消費節約に意を払い、入学生の増加を図り、収入の増加に努めた	安定に慢心することなく、消費節約、入学生の増加、収入の増加を試みる。課題対策を忠実にを行うことで、財務基盤の更なる安定化を目指す
	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	理事会・評議員会においてチェックを行っており、有効かつ妥当なものとなっている	努力目標を定め、努めていく
	・財務について会計監査が適正に行われているか	財務について会計監査が適正に行われている	努力目標を定め、努めていく
	・財務情報公開の体制整備はできているか	財務の情報公開体制整備はできている	努力目標を定め、努めていく
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	監督省庁の許認可を受け、適正かつ適切に学校運営がなされている	努力目標を定め、努めていく
	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	教職員への啓発を高める取り組みが行われており、個人情報に関する取扱いの管理体制は整備されている	様々な個人情報管理の強化徹底を行う
	・自己評価の実施と問題点の改善を行い、自己評価結果を公開しているか	自己評価を実施し、学校関係者等の評価を経て問題点の改善を行い、公開している	今後第三者評価機構による評価にも取り組む必要がある
(10) 社会貢献・地域貢献	・学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか	地域、諸団体と連携した活動を積極的に行うことにより、学生のボランティア参加の支援を行った。ボランティア活動も幅を広げ、広範かつ地域と密接した社会貢献を試みた	地域と密接に関係したボランティア活動を行い、学生のボランティア参加の意識付けを行っていく。活動も昨年度より広範なものとし、より社会貢献に取り組んでいく
	・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）を積極的に実施しているか	地域に対する公開講座を開催し、教育内容の周知に努めた。地域からの強い信頼により、参加を依頼された時の責任ある対応を評価する。	今後の改善点としては、カリキュラムの充足に伴う、イベント参加に関する早めの日程の調整が挙げられた
(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか	留学生の募集活動に努めているが、震災後受入れがなされていない状況であるため、積極的に受け入れる働きをしなければならない。	留学生から求められる環境を理解し、広範的な募集活動に努めることで、留学生の招致を試みる。学修に専念できる準備が整っている留学生を迎え入れたい。